

塗料はどこまで社会と暮らしに貢献できるのか。 事業史から私たちが学ぶもの、取り組むべきこと。

88年におよぶ事業史の次に目指すもの

当社は、日本電池株式会社(現 株式会社ジーエス・ユアサ コーポレーション)の塗料部門から分離・独立し、1929年(昭和4年)に創業し、88年におよぶ事業を展開してきました。創業製品であるさび止め塗料「ズボイド」は、世界的な特許製品としてその優れた防錆効果が高い評価を得て、橋梁・プラントなど当時の社会インフラを形成する構造物を中心に、幅広い分野で採用され、防食塗料の先駆けとして確固たる地位を築きました。

とはいえ、その後の道のりは決して平坦なものではありませんでした。戦争による国家の統制、ゼロからの出発となった戦後、復興の時代を経て高度経済成長時代に続く、オイルショックや急激な円高によるバブル経済の崩壊、平成不況、さらにはリーマンショックと経済環境の変動に直面し、当社も時代に翻弄されてきました。

そのような状況下でも、新しい塗料技術や施工法の開発、環境に優しい技術開発に取り組み、重防食塗料をはじめ多くの塗料製品を開発・上市し続け、日本の社会の発展に貢献し、総合塗料メーカーへと成長を果たしてきました。

これまでの当社の事業史を顧みて、いま当社が取り組むべきことは、約一世紀にわたり培った豊富な技術と経験を礎に、オリジナリティのある製品・情報・サービスを開発する、存在感のある企業「グッドカンパニー」を目指すことだと考えます。

今、塗料メーカーとして取り組んでいること

当社は総合塗料メーカーとして構造物用・建築用・工業用など、幅広い分野で事業活動を展開しています。

まず構造物分野では、橋梁や鉄塔、化学プラントなどの大型鋼構造物を対象としています。これらは日常的に風雨にさらされ、直射日光による紫外線の影響を受け、さらに海浜部では塩分を含む風雨が重なるなど、常に厳しい腐食環境下に置かれています。このような過酷な環境から、鋼構造物を保護するために欠かせない防食塗料は、特に「重防食塗料」と呼ばれています。前述のズボイドを始め、当社が創業当時から現在まで継続的に取り組み続けている分野であり、現在も様々な気候や塗装条件に合わせた高性能な塗料・塗装システムや、環境に優しい水性の重防食塗料をいち早く開発し、産業や生活の重要な基盤である社会インフラの構築と維持に貢献しています。

ビルやマンション・住宅など、人々の豊かな暮らしに密接に関わる建築分野では、新設のみならず、メンテナンス・リフォームさらにはリノベーションなどの改修事業にも積極的に進出しています。高品質で環境に優しく、さらには施工しやすい塗料・塗装システムの開発など、市場のニーズに対応し提供していきます。

工場ラインでの連続塗装などに用いられる工業用塗料は、アルミなどのカーテンウォールの外壁や、住宅・マンション向けなどの高意匠外壁材(窯業系サイディングボード)、自動車部品、



家電製品、鉄道車両、農業機械、建設機械など、様々な工業製品素材を対象としています。工業用塗料は安定的な生産・品質維持の観点から、塗装効率がよく塗装環境に左右されにくい溶剤形塗料が主流で、水などを主成分とした環境にやさしい塗料の普及が遅れています。しかし、有機溶剤を一切含まない究極の環境対応形塗料といわれる「粉体塗料」は、工場での塗装効率がよく、粉を回収して再利用できることから塗料ロスも少ないため、塗料廃棄量の削減やVOC(揮発性有機化合物)の削減に大いに貢献します。当社は国内でも有数の粉体塗料の生産設備を整え、普及と市場開拓に力を入れています。

このほかにも、インクジェットによる加飾技術や、プリントと塗装の複合技術を開発するなど、塗料のみにとらわれない柔軟な姿勢で、多方面への市場開拓を展開しています。

「環境重視」を企業活動の基軸へ

近年、塗料メーカーにとっては環境対策が最重要課題であり、従来の溶剤形塗料に多く含まれているVOCの削減が急務となっています。

東京都墨田区にそびえる、高さ634メートルの電波塔では世界一の高さを誇る「東京スカイツリー®」には、当社の超高耐候性ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が全面採用されています。従来の溶剤形塗料に比べ、VOC排出量を削減した塗装仕様が適用されているほか、超耐候性であることから、次期塗り替えまでのインターバル期間が長くなり、その結果、さらなるVOC削減と共に、LCC(ライフサイクルコスト)の低減も実現しました。

VOC削減のもっとも有効な手段として塗料の水性化があげられますが、当社は特に水性化が難しいとされている重防食塗料に関して、業界に先駆けて取り組み、溶剤形塗料と同等の防食性能・塗装作業性を実現しました。それが「DNT水性重防食システム」です。金属部に直接触れる防食下地ジンクリッチペイントから上塗塗料まで、全て水性塗料で構成された塗装システムは現在規格化が進められており、今後の地球環境維持や保全に大きく貢献できると確信しています。

また、2004年(平成16年)に景観法が施行され、都市の統一された景観や美しい街並みづくりに人々の関心が高まっています。当社の色彩設計部門では、景観材料としての塗料の持つ色彩機能や効果を活かし、環境に調和した優しい色彩環境を

創り、快適な暮らしが実現できるよう活動しています。

さらに、塗料・塗装業界の環境への取り組みに関する最新情報を発信する場として2003年(平成15年)から、「DNT環境塾 環境と塗料のセミナー」(環境セミナー)を、毎年北は北海道から南は九州まで全国各地で開催しています。最新の塗料・塗装の環境対応技術動向を踏まえた多様な情報発信は、官公庁や建築設計事務所、塗装業界などから多数のご参加をいただき、高い評価をいただいています。

当社はこれからも製品開発・塗装システム構築において、環境重視と環境配慮の姿勢をより鮮明なものとしてまいります。これら当社の様々な取り組みが、塗料業界における今後の方向性を指し示すのはもちろん、未知の新しい塗料・技術開発への可能性にも結びついていくと自負しています。

企業として果たすべき社会的な責務

2015年(平成27年)10月に、「当社は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します。」という経営理念を制定しました。この理念を日々の事業活動における揺るぎなき指針とし、社会のニーズにお応えする技術力と商品を提供する体制を整えています。

また、この経営理念を踏まえて「国内塗料事業の高付加価値化」、「海外塗料事業の積極拡大」、「新たな収益源事業の育成・強化」に取り組むことで、DNTブランドを国内外に浸透させ、多方面で成果を重ね、さらなる成長と発展のための事業活動を推進し、企業としてより高い次元を目指した事業展開を図ってまいります。

社会が抱える様々な課題ひとつひとつを真摯に受け止めることは、新しい製品の開発と市場への提案、時代の動きと連動した新技術の研究とその加速、有用なサービスの提供に結びつくことは言うまでもありません。同時にそれらは、企業として果たすべき責務であり、社会貢献の実践そのものであります。

当社の経営理念に基づく事業精神をご理解いただき、今後とも変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくご申し上げます。

代表取締役社長 **いわさ としじろう**
岩浅 壽二郎